

水の三島

緑の三島

文化の三島

歴史の三島

— 市民がつくる市民のための地域環境情報誌 —

エコライフみしま



知っていますか？

市の鳥「カワセミ」市の木「イチョウ」市の花「三島桜」



第 18 号

2011/10/15

- 特集「ごみ問題」
- お江戸でござる（江戸の町は「リサイクル社会」）
- 環境活動紹介（エコリーダーの地域環境活動）

廃食用油で石けん作りにチャレンジ！ ～北上えこくらぶ～



廃食用油でこんなに簡単に
石けんができるのね…

三島のごみ問題

クイズ：トイレトペーパーの芯はどのように捨てたらいいでしょうか？ 答えはP2へ

○崖っぷちの埋立地！

三島市清掃センターにある最終処分場には三つの埋立地がありますが、第一、第二埋立地は既に埋立が完了していて、現在使用できるのは第三埋立地のみとなっています。この「第三埋立地」も、現状のまま、焼却灰（セメント固化灰）、不燃残渣を埋め続けると約2年半で満杯になることを知っていますか？このままだと、近い将来、三島市にある現有の埋立地を使用することはできなくなるため、焼却施設から排出される焼却灰などを埋める場所がなくなってしまいます。

あと数年で満杯となる第三埋立地



どうするの？もっと詳しく教えて！

三島市では、最終処分場の延命化を図るため、平成22年度に清掃センターから排出される焼却灰の一部（年間1,000トン）を、群馬県草津町に外部搬出しました。今年度からは本格的に年間排出量（約4,000トン）の7割に当たる2,800トンの焼却灰の搬出を行います、その費用は年間で約7,600万円となります。また、現有の焼却施設も建設から22年が経つため老朽化が進んでいて、清掃センター施設全体の修繕にかかる費用は平成22年度実績で約1億7千万円に上っています。

しかし、現在と同じ規模の焼却施設などを建設するとなると、約100億円以上のお金が必要になると言われています。これは平成23年度三島市一般会計予算約375億円の3割近くに相当し、三島市の財政にとっても大きな負担となります。

そのため、まずは市民である私たちがごみの減量化と分別を徹底することで、焼却施設にかかる負担を減らし焼却施設の延命化を図っていく必要があります。

知ってますか？

三島市では、1人当たり1日のごみ排出量が、県平均や周辺市町より多い状況にあります。

（H21年度データ）

三島市	1,142 g
富士市	896 g
沼津市	937 g
長泉町	841 g
県内平均	1,012 g

○燃えるごみの中に資源が！～収集車700台分以上のミックス古紙が燃やされている～

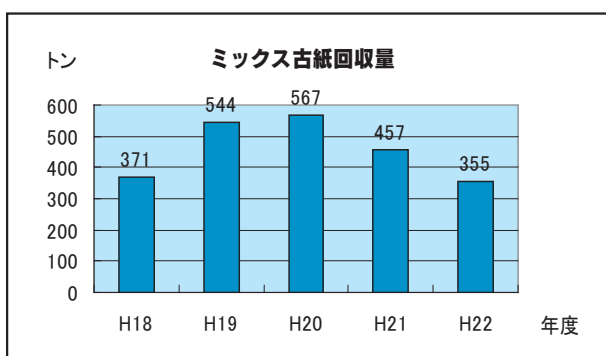
三島市では、「新聞」「雑誌」「段ボール」「牛乳パック」以外の紙類のことをミックス古紙と言っていますが、皆さんはミックス古紙をどうしていますか？ひょっとして燃えるごみとして一緒に出していませんか？

三島市では、平成18年4月から月2回の資源古紙回収日にミックス古紙も回収していますが、平成20年度をピークに回収量は減少しています。三島市のごみの排出量に占めるミックス古紙は少なくとも年間※約1,400トン以上であると推計されます。これは資源古紙として回収している「新聞」「雑誌」の回収量にほぼ相当しますが、大半がミックス古紙として回収されていないため、毎年1,000トン以上、収集車にすると700台分以上（収集車1台：1.4トンで算出）のミックス古紙がそのままごみとして燃やされていることとなります。

しかし、ミックス古紙として回収されれば、ミックス古紙は紙資源として再生業者に渡され、建材（再生ボード）の原料などとして再利用されますし、再生業者も材料として多くのミックス古紙を必要としています。

また、燃えるごみからミックス古紙を分別することで、焼却する燃えるごみの量が減ることから、長年使い続けている焼却施設の負担が軽減されると同時に、焼却施設から排出される焼却灰などの量も減ることで最終処分場の延命化を図ることもできますので、市民の皆さんは是非ミックス古紙の回収にご協力ください。

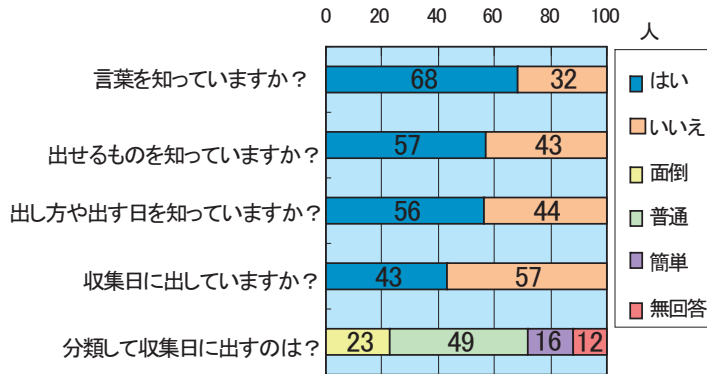
※環境省「市町村分別収集計画策定の手引き」ごみ排出量に占める容器包装廃棄物比率により算出



○アンケート100人に聞きました！

三島市民100人にミックス古紙についてアンケートを行いました。アンケート結果は次のとおりです。

「ミックス古紙」について



○分別はかんたん！



◎紙袋や紙箱がない場合は、包装紙や新聞紙で箱や袋を作ってみましょう！

※ミックス古紙の集め方の具体例や提案募集中！

担当：生活環境課 業務係（電話971-8993）

○活動紹介 ～ミックス古紙を分別していますか？～

ミックス古紙の回収促進のため、大場地区に住む三島市環境美化推進委員会会長の田中光顯さんが行っている地域での取り組みを紹介します。

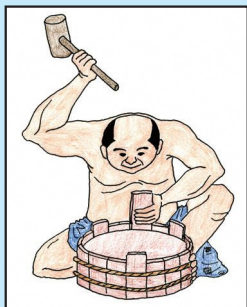
「まず大場地区全体へ声をかけ、集会の際、ごみを出す女性に多く集まってもらい、ミックス古紙について説明するようにしました。これは、ミックス古紙を分別することにより、燃えるごみが減ることで、焼却炉から出る焼却灰も減り、最終処分場の延命ができることを理解してもらうことが狙いでした。説明会をするとその直後のミックス古紙の回収量は必ず増えるので効果はあると思います。

次に、大場地区の6名の環境美化推進員に依頼して、ごみ集積所で燃えるごみを出す人のごみ袋の中身を点検してもらい、ミックス古紙として出せるものがあれば、次回から分別して出してくれるよう頼んでもらいました。また、ミックス古紙の分別回収に一人でも多く取り組んでもらうため、年に3～4回は独自の回覧物を作り、地区内で回覧してもらいました」。

田中会長によると、「これらの取り組みを通して、ミックス古紙の回収量が増えると同時に、顔見知りになった女性達が神社のお掃除を手伝ってくれるというコミュニティ作りにもまで発展している」とのことでした。



三島市環境美化推進委員会
会長 田中 光顯氏



籬屋(たがや)
籬(たが)のはめ替えて
桶を再生

お江戸でござる ～江戸の町は「リサイクル社会」～

江戸時代は、「もったいない」という精神が経済システムとなっていました。例えば、カマドや火鉢から出る灰を買う「灰買い」という商人がいて、買われた灰は、練馬大根の貴重な肥料となったり、藍の染色助剤として使用すると鮮やかな発色になるため、「藍染屋(あいぞめや)」で使われたりしました。その他、古着屋、古樽買い、肥汲みなどのリサイクル商売もありました。また、木製の桶や樽の籬(たが)が緩んだ時新しい竹で締め直してくれる籬屋(たがや)やこたつのやぐら直し、下駄の歯入れなどの修繕屋も多くありました。リサイクルなどにより物は最後まで使い切られたため、殆んど捨てるものがなかったのが江戸時代でした。

「地域の環境は地域で守り育てる」 エコリーダーの地域環境活動

北上えこくらぶ（北上地区エコリーダー）の活動

北上えこくらぶは、「ちょっぴりエコ、楽しくエコ」～地域の環境は、地域で守り、地域で育てる～を合言葉に地域に根付いた環境活動をしています。



沢地川花壇プロジェクト

環境講座の講師



- 沢地川遊歩道花壇の整備（毎月第1日曜日）市水と緑の課・県グリーンバンクなどのご協力をいただきながら活動しています。沢地幼稚園園児との苗植えも実施しています。

- 北上文化プラザ主催の環境講座での講師
5月28日(土) 廃食用油での石けん作り
9月3日(土) 廃食用油でのキャンドル作り



北上文化プラザまつりに参加

地域散策プロジェクト



- 11月20日(日)に開かれる北上文化プラザまつりに参加します。昨年はグループや個人の環境活動についての展示と、エコたわし作りの体験講座を開きました。

- 昨年の10月に北上地区の自然観察や環境問題を探るため、ごみ拾いを行いながらウォーキングを行いました。今年も10月頃に行う予定です。

皆さんも地域での環境活動に参加しませんか。お問い合わせは下記、環境政策課へ。

【編集後記】



この号の特集テーマを検討したのは東日本大震災から間もない頃で、テーマの第一候補は「節電」でした。しかし、市のごみ問題が切迫しているということで、最終的に「ごみ問題」にしました。この夏の電力不足は子供から大人まで「節電」を合言葉に頑張った結果、克服したように思われます。「ごみ問題」も「節電」と同様に「ごみの削減」を合言葉に全市民の協力で成果が得られるよう頑張りたいですね、いや頑張りました。(わ)

編集スタッフ（市民ボランティア）

飯田喜一・岩田明彦・大村洋子・佐伯忠夫・柴原俊介・鈴木祥子
堀江紗代・渡邊芳昭・近藤裕美・川村結里子

<http://www.city.mishima.shizuoka.jp/>（広報みしまと一緒に掲載中）

第18号（5月・10月の年2回発行）

平成23年10月15日発行
〒411-8666 静岡県三島市中央町5-5

三島市役所中央町別館
環境政策課内

「エコライフみしま」編集事務局

TEL：055-983-2647

FAX：055-976-8728

E-mail:kankyou@city.mishima.shizuoka.jp

エコライフみしまは再生紙を使用しています。
この再生紙も、さらに再生可能な資源古紙です。